

令和 6 年度 学校評価シート

学校名： 県立和歌山さくら支援学校 校長名： 溝端 英二

目指す学校像・育てたい生徒像（スクール・ポリシー等に基づいて記載する）	
目指す学校像	：地域に根ざした学校として、保護者のみならず地域との連携により、互いに支え合い認め合う環境を目指す。
	様々な教育活動を通して、各々の持てる力や個性を伸ばし、社会で主体的に生き、切り拓こうとする意欲と態度を育てる。
育てたい生徒像	：キラキラ輝く人になろう

学校評価の公表方法	
・	校内において全職員で評価を確認する。
・	学校運営協議会において地域、保護者の方等と評価をする。
・	ホームページで公表する。

現状・進捗度	A	十分に達成している。（80%以上）
	B	概ね達成している。（60%以上）
	C	あまり十分でない。（40%以上）
	D	不十分である。（40%未満）

自己評価（分析、計画、取組、評価）							
番号	計画・取組				評価（ 2 月 4 日現在）		
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗度	進捗状況	今後の改善方策
1	子どもが主体的に動く授業づくりを深め、専門性の向上を図る。授業づくりのポイントを学校全体で共通理解し、実践する。	C	教科担当（国語、算数/数学、自立活動）が授業づくりを深める。	授業づくりのポイントを校内に 3 回発信できたか。	B	校内にポイントを 2 回発信し、全職員で授業づくりのポイントを確認できた。	教科担当が中心となり授業改善を進めること、授業研を通して学校全体で授業改善することを継続する。教科担当は、授業改善と教育課程改善を繋がった組織とする。授業改善は、具体的に改善する内容を提示し、全体で実施していく。
			授業づくりでの環境設定のポイントを情報共有し、自己の授業の振り返りに生かす。	自己の授業の環境設定を改善できたか。（アンケート 60%以上）	B	授業改善シートについて今年度の取組から具体的な内容を追加し、授業づくり改善の視点に追加することができた。	
			自立活動の実態把握と課題抽出の方法を理解し、実践する。	自立活動の課題設定と設定理由を作成できたか。	B	自立活動シートを作成し、次年度の目標と目標の設定理由を今年度中に作成することができた。	
2	若手教員から中堅教員の研修等、校内で研修できるシステムを構築する。	C	講師・初任者・2 年次・3 年次・6 年次・中堅教諭等資質向上研修等を組み合わせた校内の研修システム（案）を作成する。	本校の研修システム（案）が作成できたか。	A	各年次研修の職員を合同で介して実施する研修等、今年度、検討しながら取り組んだ内容を大切にし、次年度の研修を検討することができてきている。	今年度の研修の反省から、中堅教諭の研修については、管理職からの提案も含め取り組んでいく。
3	和歌山北高等学校西校舎との交流及び共同学習について取組を深める。	C	和歌山北高等学校西校舎の職員と定期的に連携会議を開催し、取組を検討・実施する。	年間 3 回の連携会議及び新たな取り組みが実施できたか。	A	管理職の連携会議と職員を含めた連携会議の中で、新たな取組を想像し、実施することもできた。	職員同士で検討する機会を継続して設定していくこと、今年度始まった新たな取り組みの内容を深めることを進める。また、各取組の打ち合わせする機会も設け、取組内容の検討を共に行う。
			両校の職員で今年度の取り組みを紹介し、共通理解を図る。	全職員が和歌山北高等学校西校舎との取組を理解することができたか。	B	今年度の取り組みの新聞にし、HP に掲載した。年度末に、和歌山北高校西校舎職員に配付の予定である。	
4	地域、保護者等関係者の方と連携した本校の取り組みを広げる。	C	本校周辺の自治会と連携し、本校の取組の情報発信を行う。	地域の回覧板等で年間 2 回本校の取組を紹介できたか。	B	回覧板では 1 回、学校開放週間の案内を紹介することができた。	今年度、新たな取り組みができたことを継続すること、保護者や地域・企業など様々な協力をいただき連携を広げていく。また、取組を HP や自治会の回覧板等で情報発信していく。
			保護者の方に本校の教育について情報発信する。	保護者に向けた情報発信ができたか。（年間 2 回）	B	年度初めに教育説明会を行うとともに、取り組みについて HP、新聞等を配付し情報発信した。	
			地域・保護者と協力して取り組む活動を検討する。	次年度に向けた地域・保護者と取り組む活動を設定できたか。	B	自治会長の紹介で、公園を管理している企業の協力を得て、草刈り実習を実施できた。	
5	子供が進路選択できる教育課程の改善に向けて検討する。	C	学びの連続性を意識した学部行事の系統性を検討する。	校外学習や宿泊学習、修学旅行等学部行事の系統性を整理できたか。	B	概ね校外学習や宿泊学習、修学旅行等の行事の整理はできたが、学部間の系統性は今後の課題である。	今年度末より高等部は、コースの選択等のため、3 者懇談を実施していく。改善を行いつつ生徒が学びを選択できるように取組を進める。小中学部は、高等部の取組から、系統性を考えた検討をしていく。
			系統性のある指導内容にする。	年間指導計画が系統性ある内容に整理できたか。	C	教科書をベースに年間指導計画の作成を検討中である。	
			類型でつけるべき力に合わせた授業時数を検討する。	各類型で「つきたい力」を目指した教育課程となったか。	B	今年度、各学部で検討を始め、つきたい力を目指した教育課程の検討中である。	

学校関係者評価（ 2 月 4 日実施）
【学校運営協議会委員学校評価より】 ●結果と課題 ・本校の児童生徒は、意欲的に学校生活を送っていること、本校は地域に向けて積極的に活動していること、本校では、児童・生徒が一人で動ける環境になっていることについてどちらかというと思う回答が多く回答している。このことから児童生徒の意欲的な学校生活や地域との連携した活動等を通して今後も工夫した取組が必要である。また、校内や授業等、児童生徒一人で動ける環境にするための取組が必要であると考える。 【委員からの意見や感想】 ・生徒が少しでもわかりやすいようにするためクイズ形式の授業を展開した。私たち（委員）も学校の一助となるように今後も協力をしていきたい。 ・授業部会、職業部会、交流部会とわかれ実施しているが、他の部会の様子等、実際に参加して見てみたい。 ・評価し改善に努めていると思う。 ・積極的に活動することができていると思う。 ・校内の組織をわかりやすくしていると思う。 ・今年度スタートした取組を継続することでさらに成果が期待できると感じる。 ・目標を決めてその実現に組織として取り組むスタイルはとて素晴らしいと思う。人が変わっても継続していけるシステムまで到達できるようにしてください。 【次年度に向けて】 ・各部会の日程を委員全員に知らせる。 ・今年度同様に委員に授業での講師を依頼する。 ・一人で動ける学校環境整備をしていく。